日本一の群生地

ヤセイノサクラ　エドヒガン

県立大学名誉教授　服部 保さん

エドヒガンとの出会い

初めて国崎地区を訪れた日を今でも覚えています。

驚きました。かつて見たことのない数のエドヒガンが目の前に現れましたから。

250本以上も群生しているなんて、全国的にもこんな地域はありませんよ。

守らなければならない地域です。少しでも多くの人に、置かれている現状や課題を知ってもらい、保全活動への理解を得たいと思います。

全国的に個体数が少なく、希少なエドヒガンが、一体なぜこの地に群生しているのか。

調査を進めていくと、エドヒガンの特性や、これまでの人の営みなどが大きく影響していることが分かってきました。

この地に群生した理由

エドヒガンは日の当たらない暗い場所では芽を出すことができません。そのため、人の手が入っていない、草木が生い茂った場所では育ちにくいんです。

今回、坑道群が同時に文化財に指定されましたが、両者には深い関係があります。

坑道群のある立地にエドヒガンが群生しているんですよね。

坑道を掘削すると「ズリ」と呼ばれる廃棄物が出て裸地（土がむき出しになっている場所）になるんです。

また、このあたりの木を伐採して、鉱物の製錬に必要となる大量の燃料（まき炭）や鍛冶炭、有名な「菊炭」を生産したことなどが、エドヒガンに日光をもたらしたといえます。

さらに、エドヒガンが猪名川上流域の急傾斜地に特に多く分布しているのには、地質にも理由があると考えられます。

同流域には岩石の風化が進んだ古い地質が分布しており、この地質を含む土壌、特に急傾斜地では、地滑りや斜面の崩壊などが起こりやすく、自然現象によって発生した明るい環境も、エドヒガンの生育に一役かっていたのでしょう。

自然や人の営みが、長い年月をかけて複雑に絡み合い、この希少な群落ができたのです。

貴重な野生のさくらが250本以上も群生しているなんて
全国的にもこんな地域ないですよ

What's Edohigan? エドヒガンとは？

エドヒガンは桜の一種で、３月下旬から４月上旬にかけて淡い紅色の花を咲かせ、柄がヒョウタンのように膨れるのが特徴。

日本に自生する桜の中では最も長寿で、大きなものだと、樹高が20㍍以上、幹の直径が１㍍になるものも。

東北地方から九州南部にかけて、国外では朝鮮半島や台湾、中国南部に広く分布していますが、個体数は多くありません。

特に猪名川上流域の群生地は非常に珍しいため、県版レッドデータブック（絶滅の恐れがある野生生物の種についてまとめたもの）にエドヒガン群落の分布地（Ｂランク）として記載されています。

さくらとまぶ

かつて栄えた多田銀銅山
国崎地区には「間歩（まぶ）」と呼ばれる坑道跡が残っています
今は人影のない採鉱遺跡
貴重な野生のさくら「エドヒガン」の群生地となりました

3月31日、市指定文化財に指定された、国崎地区の「国崎字小路エドヒガン群落」と「多田銀銅山字小路坑道群」。その特徴や成り立ち、また申請に込めた思いについて専門家と申請者に話を聞きました。

【問合せ】社会教育・文化財課☎(740)1244

良好な状態で残る坑道群は珍しいです
伝えるべき貴重な文化財ですね

社会教育・文化財課　岡野 慶隆

採掘の起源

≫産銅が東大寺大仏の鋳造に？

エドヒガン群生地の下地となった多田銀銅山の坑道群。

その起源はかなり古いものなんです。

江戸時代末の「多田銀銅山来歴申伝略記」によると、奈良時代に夢でお告げを受けた聖武天皇が、東大寺の大仏を鋳造するための銅を「奇妙山神教間歩」から掘らせたとあります。

ただ、正史の記述に見られるのは、平安時代の長暦元年（西暦1037年）で、同鉱山から採掘された銅が朝廷に献上されたのが、最古の記録となっています。

正史に載っていないのは、「記述が漏れているだけだ」と、土地の古老が嘆いているという話もあるんですけどね。

現在の知明山は奇妙山がなまったものといわれています。

また、東から見ると大仏坐像の姿をしているという説があって、大仏鋳造の話に花を添えているんです。

知明山

鉱山ブームの到来

≫幕府の直轄領に

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、多田銀銅山一帯が繁栄期を迎えました。

この頃には、採掘方法や採れた鉱石の製錬方法の革新があったんです。

また、国内での需要の高まりや、南蛮貿易の主要な品として扱われていたことなどが相まって、全国的に鉱山ブームが到来したようです。

同鉱山もそのブームに乗る形で繁栄期を迎えました。

多田銀銅山で採掘された鉱石に含まれる銀の割合が、非常に高いことが判明し、これに目を付けた江戸幕府は、同鉱山を幕府の直轄領にしたんです。

また、これを支配するためや製錬の拠点として、銀山（猪名川町）に役所を設置しました。

そして、銀山の出張所のような形で山下町下財にも役所が置かれ、ここで製錬が行われるようになったんです。

この結果、製錬町として栄えるようになったそうです。

また、銀山では、大坂城落城の際に、豊臣氏が財宝を隠したという埋蔵金伝説があって、この埋蔵金を求めて発掘を行った人もいましたが、発見されていません。

山下の地から全国へ

≫画期的な技術の採用

16世紀後半には山下の地で南蛮渡来の技術をいち早く取り入れた製錬が行われるようになったという伝承があります。

非常に画期的な技術だったため、全国にその技術が広まっていったんです。

当時は製錬のことを「素吹（すぶき）」や「真吹（まふき）」などと呼んでいて、発祥の地が「山下（やましたふき）」だったことから、「山下吹」と名付けられたそうです。

生産量の減少

≫多田銀銅山の閉山

寛文年間（西暦1661～1673年）を過ぎる頃には、これまでの採掘によって鉱物がほぼ採り尽くされ、生産量が大きく減少してしまいます。

これ以降も、生産量は少ないものの採掘や製錬が行われていましたが、時代と共にそれも終わりを迎えたようです。

昭和の初め頃には最後の製錬所が操業を廃止し、昭和48年に銀山の鉱山が閉山となったことで、多田銀銅山は鉱山としての役割を終えました。

市指定文化財とは

【「川西市文化財審議委員会」で審議】

市の条例で、国や県が指定するもの以外に、歴史上または学術上、保存や活用する価値があるものを指定することができると定めています。

指定には、所有者などからの申請によるものと、教育委員会が所有者などの同意を得て指定する2つの方法があります。

いずれも学識経験者で構成される「川西市文化財審議委員会」で審議され、認められたものが市指定文化財として指定されます。

指定文化財には、有形文化財、無形文化財、民俗資料、史跡、名勝、天然記念物といったものがあります。

今回指定された文化財の詳細

【国崎字小路エドヒガン群落】

所在地＝川西市国崎字小路13・14・16・17・21―1・23・24・25・26の各一部▷所有者＝猪名川上流広域ごみ処理施設組合▷保全活動団体＝国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」▷区域面積＝約7.3㌃▷区域内成木数＝224本（指定現在確認数）

【多田銀銅山国崎字小路坑道群】

所在地＝川西市国崎字小路13・16・17・18―1・21―1・23・24・25・26▷所有者＝猪名川上流広域ごみ処理施設組合▷保全活動団体＝国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」▷区域面積＝約16㌃▷区域内坑道数＝46口（指定現在確認数）

平安製錬所

≫多田銀銅山最後の製錬所

平安家は多田銀銅山最後の製錬所として昭和初期まで操業。現在、旧宅を郷土館として公開しています。

旧平安家住宅内には鉱山資料の展示室が設けられていて、同製錬所で使用されていた、さまざまな道具類や発掘調査の成果を展示。

また、敷地内には「山下吹」の碑が建てられており、当時をしのぶことができます。

【問合せ】郷土館☎（794）3354

受け継ぎ伝える

平安の時代から長い時をかけて
現在に伝わった貴重な遺産。
知ることから始まる
郷土への愛があります。
川西が誇るべきふるさとの景色。
次の世代へ残し伝えること
それが私たちの
役割ではないでしょうか。

国崎クリーンセンター
事務局次長　水和 彰朗さん

市指定文化財への申請を決めました

里山を守らねばと思ったんです

申請への思い

国崎クリーンセンターは、自然豊かな山林の中にあります。

しかし、建設された当初は「放置里山」になっていました。

この敷地内山林には、全国的に希少なエドヒガンが250本以上生育していますし、近世を中心に隆盛した採鉱遺跡の間歩が多数存在しています。

また、炭焼き窯の跡や台場クヌギなどが点在し、この里山が、かつては地域の人たちにとって欠かせない存在であったことが想像できます。「放っておくと、山自体が荒れていく」そんな危機感がありました。

貴重な里山を守るために、何かお手伝いできることはないだろうか。地域の自然環境や景観にふさわしい里山林にしたい。地域住民が環境学習の実践の場として活用できる「新しい時代の里山」として再生できれば―そう考え、24年3月に「国崎クリーンセンター里山林整備構想・計画」を策定したんです。市指定文化財への申請を考え始めたのはその頃でした。

自分たちにできること

25年度には県の支援を受けて、日照環境や景観を改善するための間伐、また管理道や生物多様性を高めるための獣害防止柵の設置を行いました。

しかし、里山を守るためには、今後も定期的な保全活動をやっていかなければなりません。

例えば、エドヒガンは日の当たらない場所が苦手なので、生育の妨げになる高木の間伐や、ツルの除去、幼木を守るための鹿の食害対策などを行っていく予定です。

また、昨年は台風や集中豪雨のため、道が崩れてしまったので、その補修もしなければなりません。

他にも、自然学習ゾーンを整備して、各種イベントや環境学習に活用してもらうなど、やらなければならないことはたくさんあります。

大変ですが、地域の人に身近に感じてもらえて、楽しんでもらえればと考えています。その結果、理解が深まり、誇りに思ってもらえて、郷土愛が育まれれば、それが何よりですね。

国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」

「ゆめほたる」では、国崎クリーンセンターの啓発施設として、世界トップクラスのゴミ処理技術を見学できます。

また、同施設は展示室や環境情報センター、各種工房などを備え、地球環境の視点から社会を考える場を提供するために造られました。春には期間限定でエドヒガンを一般公開するなど、さまざまなイベントを開催しています。

詳しくは同施設☎072（735）7282または同施設ホームページ（URL＝http://www.kunisakicc.jp/index_kcc.php）へ。